

北海道大学低温科学研究所共同利用研究集会
「南北両極域における海洋・海氷の現場観測研究」
2016年12月19日

日時：2016年12月19日（月）

場所：北海道大学低温科学研究所 会議室（研究棟2階）

開催趣旨：

南北両極域は地球温暖化の影響を顕著に受ける領域で、すでに減少が観測されている海水量だけでなく、海洋循環場・大気循環場・海洋生態系が今まさに変化している。当該領域では多角的かつ総合的な視点が必要不可欠であるため、本研究課題では南極海および北極海の観測を主導する4つの教育研究機関が参画している。本研究課題の枠組みを利用することで、共同観測により取得したデータの解析や今後の共同観測研究の議論を進めることを目的とする。

プログラム：

13:00-13:10 趣旨説明 溝端浩平（海洋大）

13:10-13:35 川合美千代（海洋大） 「カナダ海盆における淡水起源の経年変動」

13:35-14:00 溝端浩平（海洋大）

「マイクロ波リモートセンシングによる太平洋側北極海の海面塩分推定」

14:00-14:25 渡邊英嗣（JAMSTEC）

「北極海モデリングにおける河川水流入データの比較検証」

14:25-14:50 中野渡拓也（極地研）

「ポーフォート海の海氷拡大に対するベーリング海峡の海洋熱輸送の影響」

14:50-15:15 小野純（JAMSTEC） 「北極海氷面積の予測可能性とその起源」

15:15-15:40 （休憩）

15:40-16:05 大島慶一郎（北大）

「2016年南極コスモノート海に出現した巨大外洋性ポリニヤ」

16:05-16:30 牛尾収輝（極地研）

「JARE-57, -58 海氷モニタリング・重点研究観測速報と今後の第IX期計画」

16:30-16:55 北出裕二郎（海洋大）

「Possibility of AABW source originating from meddle size polynyas along the coast of Australian-Antarctic Basin」

16:55-17:05 深町康（北大） 「北極域研究共同推進拠点の共同研究助成について」

17:05-17:30 （休憩）

17:30-18:00 総合討論（進行：溝端）